

経営理念：利用者『最善の利益』を図り、地域の福祉に貢献する

保育の方針 1. 子どもの人格・人権を尊重し、一人ひとりの思いを大切にします 2. 子どもの発達に即した援助・保育をします

3. 子どもが安心して過ごせる生活の場にします

保育目標 ◆じょうぶな身体（健康）◆たしかな考え（理性・認識）◆ゆたかな心（感性・情緒）◆よき仲間（協調性・社会性）

らっこ 0歳児クラス便り

2023. 8.22（火） 文責：南 陽子

もう！イヤだ！！ 離して！ 貸して！

～友だちとのやり取りが見られてきました～

先月のクラス便りでは水遊びの話をしました。水遊びをしながらプリンカップや空容器で遊んでいると友だちが遊んでいるものが欲しくなり取ることも見られてきました。室内も、手先で遊べるコーナーやままごとコーナー絵本コーナーと分けて遊びが満足し続けられるように設定を替えました。始めは取られても「？」というような表情だった子ども達。次第に遊びを続けていくと、取られないように「あー！」や「いー！」など声を荒げるようになりました。その後はとられないように自分の方に引いたり、友だちがいる場所よりも遠い場所に引いたり、背中を向けておもちゃをガードしたりと頭を使っていました。時には取ろうとした子に対して目力や頭で攻撃もします。全力で自分の物だよ！というアピールがしっかりと出ています。私たちも見守りながら「▲▲ちゃんが使ってたね」「でも〇〇ちゃんも欲しいね」「〇〇ちゃんも使いたかったね」「▲▲ちゃんもまだ使いたいね」と気持ちを代弁します。しかしながら、なかなか自己主張の強いらっこ組の女の戦いは終わりません！仕草と一緒に「ちょうだいや、どうぞって出来るかな？」と、こちらも負けずに伝えていきます。子どもも大人も根比べ。死闘を繰り返すかのように毎日やり取りをしています。

最終的には今後噛みつきにも繋がります。しかし、噛みつきも成長段階の一步です。生まれてから生きていくのに必要な食事を自分で口から摂る事ができているので噛みつきは起こると研修の中の講師から再度教えて貰いました。自分の身を守るにはまず、口が発達し噛みつき、その後手や足の運動機能が発達すると叩いたり、蹴る事も出てくると話されました。今現在も噛みつきこうとする行動が見られていますが、事前に防ぐことが出来ている状況です。噛みついて相手を傷つけることは良くないですが、噛みつくには意味があると思います。私たち大人の役割は、叱りつける事ではなく小さいながらも「(噛まれて)痛かったね」「おもちゃが欲しかったね」と代弁し「でも、噛むことはしてはいけない事だから。お話ししてね。」「ちょうだいて話してみようね。」と噛んだ子、噛みつかれた子にはお互いに話していこうと思います。また、前回のお便りで書きましたが経験という形で保護者の皆様にはしっかりと説明していきます。

ただ、友だちとのやり取りが見られてきたことは、大人から自分のクラスの友だちに興味を示してくれてきたことです。大人との関わりが満足し園での環境にも慣れて安心して生活できるからこそだと思います。1ヶ月での成長が目まぐるしく感じる毎日です。その中で友だちが遊んでいる事が楽しそうと思い興味を示して近づくことが自然に出てきています。そこでは友だちとのトラブルは必ずあります。しかしやり取りを経験しお互いを知ることで友だちへの思いやり相手の気持ちも分かち合える仲間関係が出来てくると思います。取り合いは仲間関係の第一歩だと思い今後も見守っていきたいと思います。

《お願い》

※シャワー用のタオルのご協力ありがとうございます。8 月後半ではありますが水遊び沐浴はまだまだ続けていきたいと思っています。よろしくお祈りします。

※砂遊びが盛んになりました。足と指の爪切りをお願いします。

♪今月の子ども達の様子です♪



どろんこも気持ちいいね♪



みずにつからせて~

苦情・相談解決制度 本園の保育や処遇等に意見・要望がありましたら、ご遠慮なく申し出て下さい。

受付担当者 主幹保育教諭 榎並 理恵 解決 責任者 園長 中根 賢誠

第三者委員 丸田瑞穂(099-482-2927) 横峰 友里子 (099-474-1506) 山口 和美 (090-5473-5866)